

2020年度事業計画

福岡未来創造プラットフォーム

1. 学生募集作業部会.....	1
1-1. 「高校生向けウェブサイトの充実」事業	1
1-2. 「各大学の募集活動を支援する 広報媒体の開発」事業.....	2
1-3. 「学生募集力の強化に向けた調査・実証実験事業の展開」事業.....	3
1-4. 「大学生等を活用した広報体制の構築」事業	4
2. 地域人材育成作業部会.....	5
2-1. 「福岡未来創造プログラム」の実施（取組1）	5
2-2. 「福岡未来創造プログラム」の開発（取組1）	6
2-3. 単位互換授業の実施（取組2）	7
2-4. 学生ネットワーク構築（取組3）	8
3. 地元就職・定着作業部会.....	9
3-1. 地元企業による学生のための事業（取組1）	9
3-2. 地域企業インターンシップ等協同実施（取組2）	10
3-3. 起業・創業人材育成支援及び環境整備（取組3）	11
4. 生涯学習作業部会.....	12
4-1. 「子どもの貧困を科学する」（その2）	12
4-2. リカレントカフェ	13
4-3. 小中高の教育支援	14
4-4. 教育人材育成に関するプログラム	15
4-5. 大学の生涯学習情報発信事業	16
5. 大学・自治体・産業界交流作業部会.....	17
5-1. 対話と交流の場づくりの推進	17
5-2. 共同研修事業の推進	18
5-3. 資源の共有化や業務の共同化の検討及び実施体制の構築.....	19
5-4. 人事交流の促進（中止）	20
5-5. プラットフォーム内の組織の垣根を越えた自主的活動の支援・認定制度 の整備（中止）	21

※取り消し線、朱書きの箇所は新型コロナウイルス感染拡大に伴う修正を示す

1. 学生募集作業部会

1-1. 「高校生向けウェブサイトの充実」事業

目的

全国の高校生に向けて大学や都市の魅力を効果的に発信するとともに、本プラットフォームの活動を広くPRするホームページ「DAiFuk.」を運営する。

事業概要

各大学のオープンキャンパスや学園祭等の情報をホームページ「DAiFuk.」を通じて発信する。また、国、自治体等が実施する新型コロナウイルスの影響を受けた学生向けの支援策についても随時発信し、広く周知していく。

学生広報チームを中心に、「大学生活に適している福岡」のアピールや「各大学の認知度向上」に寄与する内容や動画の活用等効果的な手段について、若者目線で企画立案する。~~ウェブサイトの内容充実を図り効果的な情報発信を行う。また発信した内容の分析・検証を行い次年度のアクセス数増加に向けた改善を行う。~~

目標値

- 18万アクセス

スケジュール

- ~~5月～7月~~～~~3月~~ 学生広報チームによる企画立案
- ~~8月～9月~~ 掲載内容の具体化、ウェブサイトへの掲載
- ~~10月～11月~~ 分析・検証
- ~~12月~~ 次年度への改善項目の抽出
- 7月～ オープンキャンパス情報の掲載
- 10月～ 学園祭情報の掲載
- ～3月 学生広報チームによる企画立案

※九州博報堂との連携が不可の場合は、オンライン対応が難しいため学生広報チームの編成自体の可否を検討する。

1-2. 「各大学の募集活動を支援する 広報媒体の開発」事業

目的

福岡都市圏の大学とまちの魅力を発信する目的で作成したパンフレットを大学間で共有し、福岡都市圏への進学に対する好印象を与えるような広報媒体として活用する。また新たな広報媒体の可能性について検討する。

事業概要

2019年度に作成した高校生向けのパンフレットについて、冊子体とWEB掲載版を併用し、県外の高校生向けに展開する。また大学ネットワークふくおかで作成した従来の「福岡は宝島」についても内容を更新し、継続して配付・展開を行う。

目標値

- 高校生向けのパンフレット「ふくおかカモン」~~(2019年度作成)~~：パンフレットデータをプラットフォームHPや各大学HPにWEB掲載する。~~紙媒体として使用する大学にはデータの提供を行う。~~
- 「福岡は宝島」及び「ふくおかカモン」について、部数検討の上、印刷して各大学へ配布する。~~±10,000部程度~~
~~(2019年度パンフレットが作成途中であるため変動の可能性有)~~

スケジュール

- 8月～ 10月 配付活動
- 10月～ 12月 配付状況等の検証
- 10月～ 3月 次年度へ向けて新たな広報媒体の可能性について検討

1-3. 「学生募集力の強化に向けた調査・実証実験事業の展開」事業

目的

学生募集の新しい方策や手法の開拓を目的に、福岡都市圏の大学の情報・魅力の効果的・効率的な発信や「大学のまち福岡」のブランド力の向上、新たな募集地域の開拓等に資する調査・実証実験事業を企画・実施し、その検証に取り組むとともに、その成果をエリア全体の学生募集力の強化に資するさらなる事業展開や仕組づくりに活用する。

事業概要

- 「大学のまち福岡」のブランド力の向上を目的として、~~九州地域以外（候補地：東京、大阪、広島等）にてオンラインを活用し~~、高校生、保護者、高校教員に向けた参画大学合同のPRイベントを開催する。
- ~~沖縄での高校生への広報活動として、沖縄出身学生による福岡での大学生活や住みやオサキ等の講演を、2019年度から引き続き実施する。~~

目標値

- PR イベント 参加者 100 名
- ~~沖縄での広報活動 参加者 100 名~~

スケジュール

■PR イベント

- ~~4月～7月 現地PR活動（新聞広告等によりPR）~~
- ~~7月または8月~~ 8月～9月 合同オンライン説明会開催
- 1月～3月 検証及び次年度の検討

■~~沖縄での広報活動~~

- ~~7月～11月 2回実施（4校訪問）~~

1-4. 「大学生等を活用した広報体制の構築」事業

目的

高校生が魅力的に感じる情報を発信するため、プラットフォーム参画大学の学生たちを中心とする広報体制を構築し、「大人の目線」ではない自由闊達な発想に基づく企画立案及び活動を支援する。活動支援にあたっては、参加した学生の教育的な体験につながることに配慮する。

事業概要

15 大学から広報活動に参加する学生を募り以下の取組を実施する。

- ①高校生向け web サイトの内容充実のための検討・~~実施~~
- ②2021 年の制作に向け新たな広報媒体の企画立案

目標値

- ・ 参加学生 10 名

スケジュール

- ・ ~~4 月~~ ~3 月 広報学生を募集・編成
- ・ ~~5 月~~ 広報チーム編成
- ・ ~~5 月~~ ~ (取組を実施)
 - ①~~5 月~~~~~9 月~~ ~3 月 高校生向け web サイトの内容充実検討・~~実施~~
 - ②~~10 月~~~3 月 新たな広報媒体の企画立案 12 月 実施内容を検証、次年度に向けた方針の作成

※九州博報堂との連携が不可の場合は、オンライン対応が難しいため学生広報チームの編成自体の可否を検討する。

2. 地域人材育成作業部会

2-1. 「福岡未来創造プログラム」の実施（取組 1）

目的

PF15 大学の学生を対象に、「地域の未来創造を担う人材の育成」を目的とした PF オリジナルの教育プログラムを開発する。幅広い学問領域や社会的課題をテーマに、地域全体を包括するような学びと成長の仕組み作りへ向けた試験的实施を目指す。

事業概要

コロナ禍での実施を前提に「福岡を知る」「福岡の未来を創造する」ことを中心に、①福岡学、③SDGs を学ぶ、の 2 講座を“新しい生活様式”に即した形で開講する。大学教員はもちろん、企業、自治体、NPO 団体などの多様な人材に講師を委嘱し、オンデマンドやオンライン形式を導入しながら PF ならではのタイムリーでホットな学びを提供する。

目標値

- 受講者実数 ①、②の 2 講座合計で 50 名（前年度実績：2 講座合計 50 名）

スケジュール

- 8 月 実行委員会発足、講座企画
- 9 月 受講生募集
- 10 月～2 月 講義実施
- 12 月～3 月 学生アンケートによる振り返り
- 1 月 2020 年度講座の振り返り
- 2 月 2021 年度全体プログラムの確定(新規講座を含む)
- 3 月 成果報告

2-2. 「福岡未来創造プログラム」の開発（取組 1）

目的

大学・自治体・産業界が組織の垣根を越えて連携協力し、知識や人材等の資源の共有を図りながら、福岡の未来創造を担う優秀な学生を育成することを目的として、「福岡未来創造プログラム」の体系化を目指す。

事業概要

2023 年度までに「福岡未来創造プログラム」4 コース 20 科目を体系化することを目標に、WG で提案があった教育プログラムのテーマ、アイデアを実現化できるよう大学間、企業、自治体と協議しプログラムの開発に取り組む。2020 年度「福岡未来創造プログラム」の試行状況を睨み、実効的かつ中長期的な観点から PF 独自の教育プログラムを検討する。

目標値

- 2021 年度以降の新規開発講座 3 講座（前年度実績：4 講座）

スケジュール

- 8 月～12 月 WG で継続協議、必要に応じて実行委員会設置
- 1 月 2021 年度新規講座の確定
- 2 月 2021 年度全体プログラムの確定（継続講座を含む）
- 3 月 成果報告

2-3. 単位互換授業の実施（取組 2）

目的

福岡都市圏の歴史や伝統に触れることで地元に対する愛着を醸成するとともに、国際的な視点や考え方に基づきグローバルに活躍できる人材を育成するために、西部 5 大学連携の「博多学」を単位互換科目として PF に公開することを検討する。

事業概要

単位互換授業については以下のとおり対応していく。

- ①「西部 5 大学連携」で実施している単位互換授業については、2020 年度も継続する。
- ②「西部 5 大学連携」による「博多学」について、2021 年度以降 PF 加盟 15 大学の学生が受講可能な改訂版「博多学」の開発について検討する。
- ③PF として、新たな単位互換科目開発の必要性に関するニーズ調査を実施し、2021 年度以降の計画に反映させる。

目標値

- （1）2020 年度「博多学」履修登録者数 50 名（前年度実績：50 名）
- （2）WEB アンケートの実施とアンケート結果への対応検討

スケジュール

- 4 月 「西部 5 大学連携」単位互換授業履修登録開始
- 4 月～8 月 授業実施、試験実施、成績確定、単位認定
- 11 月 15 大学に「単位互換授業に関する WEB アンケート」実施
- 12 月～1 月 WEB アンケート結果集計、公表、今後の方針確定
- 1 月～2 月 2021 年度単位互換授業 開講科目確定
- 3 月 成果報告

2-4. 学生ネットワーク構築（取組3）

目的

昨年度に続き、地域貢献活動を通じて大学の垣根を超えた学生ネットワーク構築を目指す。新型コロナウイルスに象徴されるような社会変化に対応し、時代を切り拓く力を伸ばすために、学生の主体的学びを加速化するコミュニティの基盤形成を図る。

事業概要

学生交流プロジェクトとして PF 加盟大学に参加を募り、地域貢献や商店街振興に寄与する非接触型オンラインイベントを企画する。参加学生が時代を切り拓く力（創造力、課題解決力、論理的思考力、コミュニケーション力等）を高め合い、経年的成長の場としてのネットワーク化を図る。ただし、新型コロナウイルス感染防止のため活動はオンライン限定とし、コンペ形式導入等の工夫を図る。

目標値

- (1) 2020 年度「学生交流プロジェクト」登録学生数 50 名(前年度実績：62 名)
- (2) 「学生交流プロジェクト」参加学生への活動証明書(仮)発行 40 名

スケジュール

- 8 月 学生交流プロジェクトメンバー募集、活動証明書(仮)検討
- 9 月 学生交流プロジェクト キックオフ
- 9 月～1 月 商店街振興を目的としたオンライン企画立案実施
- 1 月 活動振り返りと次年度活動プログラム検討、活動証明書(仮)発行
- 2 月 次年度活動プログラム確定
- 3 月 成果報告

3. 地元就職・定着作業部会

3-1. 地元企業による学生のための事業（取組1）

目的

プラットフォーム参画大学・自治体・産業界等の連携協力のもと、大学生を対象とした『福岡で働くこと・暮らすこと』を学ぶイベント、地域企業で働く人との交流会を企画・実施する。

事業概要

~~2019年度実施した第1回JOBカフェにおいて、参加学生45名全員が次回も参加したいと回答したため2020年度も引き続き実施する。~~

~~また、福岡で経営に携わっている方との情報共有を行い、未来の福岡について語るイベントを実施し考える機会を提供する。~~

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、就職状況が悪化したことにより、2021年度より実施を予定していた合同企業説明会をオンライン（ZOOM）にて実施する。

目標値

- 1回あたり参加者500名以上

スケジュール

■JOBカフェ事業

- ~~2020年9月：JOBカフェ事業~~

■地元企業を知るためのセミナー

- ~~2020年11月：経営者と繋がる座談会~~
- ~~経営者によるプレゼンテーション~~
- ~~参加者とのディスカッション~~
- ~~フリートーク~~

■参画大学就職・キャリア担当者との情報交換会

- ~~2020年6月実施（予定）~~

■オンライン合同企業説明会

- 2020年7月：参加企業募集、参画大学への告知
- 8月以降：4回以上実施

■参画大学就職・キャリア担当者との情報交換会

- ~~2020年11月実施（予定）~~

3-2. 地域企業インターンシップ等協同実施（取組 2）

目的

プラットフォーム参画大学・自治体・産業界等の連携協力のもとで、若者の地元就職・定着の促進につながる質の高い地域企業インターンシップやキャリア教育プログラム等の共同開発・実施する。

事業概要

29 の加盟大学、行政や産業界から約 400 社・団体の受入先のある九州インターンシップ推進協議会との差別化を図るため、低学年の学生を中心とした在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験向けのインターンシッププログラムの策定に努める。また、大学の垣根を越えた参画大学合同のキャリア教育の実践に向けてプログラムの構築を行う。

目標値

- プログラム共同開発（案）策定

スケジュール

■インターンシップ

- 8月～9月：インターンシップ推進協議会事務局との情報交換会
- 9月：プログラム開発協力企業選定
- 10～11月：プログラム開発協力企業訪問、趣旨説明等
- 12月：インターンシップ内容に関する打合せ
- 1月：プログラムの構築

■キャリア教育

- 10月：プログラム概要検討
- 11月：プログラム講師選定
- 12月：プログラム内容検討
- 1月：プログラム実施時期検討

3-3. 起業・創業人材育成支援及び環境整備（取組3）

目的

~~PP連携校を中心に~~、起業・創業に関心を持つ学生を対象に起業家育成プログラムを実施し、大学における起業文化の裾野の拡大を行うとともに、起業家の輩出を目指す。

事業概要

アントレプレナーシップの養成や起業家輩出につながる実験的プログラムを企画・実施・検証し、その成果をもとに学生の起業・創業を支援する仕組みづくりや環境整備を進める。

目標値

- 起業家の輩出数 1 人（令和 5 年度までに 10 人）

スケジュール

- 8 月 参加者募集開始
- 9 月 キックオフセミナー
事前調査、採択結果通知
ヒアリングの上、奨励金（活動資金）支給
- 10 月 ビジネス活動開始
- 11 月後半～12 月上旬
ビジネスプランの集中ブラッシュアップイベント兼中間報告
- 3 月 最終報告会

4. 生涯学習作業部会

4-1. 「子どもの貧困を科学する」(その2)

目的

この事業は、最新の研究動向に関する知見と福岡市内の子どもに関する市民活動について学び、関係者同士が出会い知見と交流を深めることで、解決にむけた新たな取り組みが生まれるネットワークづくりを目指す。

事業概要

2019年度に実施した『「子どもの貧困」を科学する』で生まれたネットワークを維持・発展すべく、後継プログラムとなるものを実施する。講座の企画から実行に至るまでを前回プログラムの受講生から成る実行委員会で実施する。なお講座は、Zoomなどによるオンデマンド方式で実施する。

目標値

- ~~10080~~名（どのような実施形態になるかは未定）（講座4回×20名）

スケジュール

- 7月中旬 実行委員会
- 7月下旬 講師調整、開催場所等調整
- 8月上旬 チラシ・募集要項作成
- 8月中旬 募集開始
- 9月下旬 募集締切
- 10月中旬 講座実施
- 11月中旬 関係者による振り返り
- 3月 成果報告提出

4-2. リカレントカフェ

目的

2019年度に実施した、「リカレントカフェ」について、2020年も実施する。

本事業の目的は、「学び」をテーマに地域の多様な人びとがライフステージや学習ニーズに応じて生涯学ぶことができる（学び直しができる）学習環境の構築や、リカレント教育の普及推進に関心をもつ担い手の発掘とネットワークづくりとする。

またプラットフォームを母体に、各組織内でリカレント教育の必要性が認められ、多様なプログラムが開発され、体系化されていく仕組みを構築していく。

事業概要

「学び」についての理解を共有する場として、大学・自治体・産業界での対話と交流の場の創出を図るため、福岡市、商工会議所、市内大学、その他市内で社会人等への学習機会を提供している団体等と連携し、ワールドカフェ等の対話・交流の場を開催する。

なおワールドカフェ等は、Zoom などによるオンデマンド方式で実施する。

目標値

- 参加者 20 人 × 実施回数 3 回 = 総参加者 60 人

スケジュール

- 7月～12月 リカレントカフェ実施企画、周知等
リカレントカフェの実施
- 3月 成果報告書提出

4-3. 小中高の教育支援

目的

PF 参画大学・自治体・福岡市内の学校等との連携協力のもと、社会や地域のニーズに対応した学校教育支援事業の企画・実施を共同で進める。

事業概要

本事業は、小中高の学生を対象として、学びの楽しさや学ぶことの大切さについて考えるきっかけを与えるイベントを実施することや、小中高の関係者が抱える問題などを解決するような取組みを実施する。

目標値

- 1プログラム 40名

スケジュール

- 7月～9月 事業内容に関する検討
- 10月～3月 事業実施
- 3月 成果報告会

4-4. 教育人材育成に関するプログラム

目的

社会人、子ども、女性、高齢者、外国人及び障がい者をはじめとした、地域の多様な人びとの社会での活躍や貢献を促す質の高い生涯学習・リカレント教育プログラムを大学・自治体・産業界が共同で新規開発・実施する。

事業概要

生涯学習・リカレント教育プログラムを大学・自治体・産業界が共同で新規開発・実施する。事業内容は、産業界・自治体等と共同で実施することなどを生涯学習WG内で検討する。

目標値

- プログラム参加者数：40名

スケジュール

- 7月～9月 事業内容に関する検討
- 10月～3月 事業実施
- 3月 成果報告会

4-5. 大学の生涯学習情報発信事業

目的

人生 100 年時代を見据えて、プラットフォーム参画大学の生涯学習プログラムの情報（内容・魅力・受講制度等）を効果的に発信することにより、大学で学ぶことを市民にとってより身近なものにしていく。

事業概要

~~中心市街地の公共施設や商業施設のオープンスペース等を活用して、プラットフォーム参画大学の生涯学習プログラムを紹介する公開講座や展示会を開催する。実証実験の試みとして、オンラインを活用してプラットフォーム参画大学の生涯学習プログラムを紹介する講座等を実施し、その効果（オンラインでの生涯学習講座に対するニーズや反応、効果的な発信方法等）の検証を行う。~~加えて、各大学の生涯学習プログラムの情報を体系化・整理して、インターネット上などで発信する仕組の構築を検討する。

目標値

- ~~イベントの来場者数~~受講者数：~~300~~150 人

スケジュール

■公開講座・展示会

- ~~5~~8 月～~~9~~12 月 イベント企画・~~オープンスペースの開拓・利用交渉~~準備
- ~~10~~1 月～ 2 月 イベント開催（~~2~~1 回以上）・検証
- 3 月 成果報告書提出

■情報の体系化・整理

- 情報整理・発信方法等について検討中

5. 大学・自治体・産業界交流作業部会

5-1. 対話と交流の場づくりの推進

目的

大学・自治体・産業界等の関係者による対話と交流の場を継続的に開催することで、組織の垣根を越えた顔の見える関係性づくりを進めるとともに、福岡の未来創造につながる多様な事業や仕組等の提案・創出につなげる。

事業概要

①大学・自治体・産業界の対話と交流の場として、「フューチャーセンター福岡（仮称）」を立ち上げ、定期開催する（~~年6回~~月1回程度）。福岡の未来創造に関わるテーマについて産学官での対話と交流を進めるとともに、そこで生まれたアイデアや構想等を代表者会議・運営委員会・WG等にフィードバックすることで、新たな事業や仕組等の創出につなげていく。

~~②代表者会議及び運営委員会の開催の機会を使い、各機関の代表者や運営委員間の対話や情報交換を進めることで、組織の垣根を越えた関係性づくりやプラットフォームの構想、個別の事業、仕組等の提案・創出につなげていく。~~

※新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、当面はオンラインを中心に「フューチャーセンター福岡（仮称）」を開催する。

目標値

- 対話と交流の場への参加者数：延べ 120 人以上
- 対話と交流に基づく新規企画・事業等の提案件数：3 件

スケジュール

【フューチャーセンター福岡（仮）】

- 5 月 立ち上げ・第 1 回開催
- 6 月～3 月 定期開催（月 1 回程度）

~~【代表者会議・運営委員会】~~

- ~~4～3 月 運営委員会の機会における対話と交流の実施（年 3～4 回程度）~~
- ~~3 月 代表者会議の機会における対話と交流の実施~~

5-2. 共同研修事業の推進

目的

プラットフォーム参画機関の人材の資質向上及び交流の促進を目的に、プラットフォーム参画機関の共同による研修事業を推進する。

事業概要

プラットフォーム参画機関による効果的かつ魅力的な研修プログラムを共同で開発・実施する。各参画機関の現状・ニーズを踏まえた上で、複数機関で実施することで大きな効果が期待できる研修を企画・実施する（個別機関で実施するより複数機関で共同実施したほうが知的基盤の醸成や実践面において相乗効果が期待できるもの、複数機関で共同実施することで財政・運営負担の軽減が期待できるもの、個別機関だけでは実施が難しいもの等）。~~加えて、プラットフォーム内の各機関で実施されている既存の研修プログラムを他機関の職員等も受講できる仕組みづくりを進める。~~

※新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、当面はオンラインを中心に共同研修を開催する。

目標値

- 研修の共同実施件数：~~52~~ 件以上（PF 主催 ~~2~~ 件、既存開放 ~~3~~ 件）
- PF 主催研修への参加者数：80 人
- ~~既存研修への他機関からの参加者数：30 人~~

スケジュール

- ~~48~~ 月～~~59~~ 月 共同研修の企画・準備・広報
- ~~6~~10 月 第 1 回目の共同研修の実施
- ~~9~~1 月～~~102~~ 月 共同研修の企画・準備・広報
- ~~113~~ 月 第 2 回目の共同研修の実施
- 3 月 実施事業の検証

~~※並行して、既存研修の共同受講の仕組みの検討及び各機関との調整を進め、共同受講の実績づくりを進める。~~

5-3. 資源の共有化や業務の共同化の検討及び実施体制の構築

目的

プラットフォーム参画機関の経営力の強化や財政負担の軽減を目的に、知的・人的・物的資源の共有化や業務の共同化の様々な可能性（備品・設備等の共同購入、施設・設備等の共同利用、業務システムの共同開発、クロスアポイントメント制度の実施、事務の共同運営等）について調査・検討し、それらを実現するための体制や制度、仕組みづくりを推進する。

事業概要

2020年度はプラットフォーム内の資源共有化・業務共同化を企画・推進するプロジェクトチームを設置し、~~同組織を中心に次年度に実施する資源共有化・業務共同化の企画の作成及び実現に向けた調整を進める。各参画機関のニーズ調査及び実現可能性の高いメニューの分析・選定を行う。~~

※新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、当面はオンラインを中心にプロジェクトチームのミーティングを開催する。

目標値

- プロジェクトチームの設置
- ~~2021年度の実施が決定した資源共有化・業務共同化の企画件数：1件~~

スケジュール

- ~~5~~9月 資源共有化・業務共同化を企画・推進するプロジェクトチームを設置する。
- ~~8~~10～12月 プロジェクトチームにおいて~~次年度実施する事業（共有化・共同化の具体取組）の企画案（1件）を策定し、運営委員会に提案する。~~ニーズ調査の方法・項目を定め、調査を実施する。
- ~~9月～~~運営委員会での決定に基づき、~~提案企画への参加を希望する機関間で実現に向けた打ち合わせ・調整を進める。~~
- 1～3月 調査結果をもとに実現性の高いメニューの分析・選定を行う。
→企画案を策定して、次年度の運営委員会において提案する。

5-4. 人事交流の促進（中止）

※令和2年度は中止

目的

~~プラットフォームに参加する大学・自治体・産業界等の中で人事交流の仕組みの整備を進めることで、プラットフォーム内の人的交流の促進及び人材の育成につなげていく。~~

事業概要

~~人事交流促進に関する実行委員会を立ち上げ、同委員会を中心に人事交流の仕組みづくりや人事交流を希望する機関間でのマッチングに取り組み、実績づくりを進めていく。同委員会での協議内容や提言等は代表者会議や運営委員会において共有を行い、プラットフォーム内での理解を広める。~~

目標値

- ~~人事交流の実績件数：2件~~

スケジュール

- ~~5月~~ ~~人事交流に関する実行委員会の設置~~
- ~~5月～9月~~ ~~人事交流促進の仕組みに関する提案書を策定する~~
~~⇒運営委員会に提出~~
- ~~5月～8月~~ ~~プラットフォームの参画機関と個別に交渉し、人事交流の実施を希望する参画機関間からマッチングを進めていく。~~
- ~~8月~~ ~~実施状況の検証~~

5-5. プラットフォーム内の組織の垣根を越えた自主的活動の支援・認定制度の整備（中止）

※令和2年度は中止

目的

~~プラットフォーム内の組織の垣根を越えた交流の促進に資する自主的な企画や事業（課題解決型プロジェクト、学習会、各種イベント等）を人的・資金的に支援するための制度や仕組みを整備し、運用する。~~

事業概要

~~支援制度及び認定制度の公募要領を作成し、PF参画機関に公開する。制度に基づき、自主的な企画・事業等の募集・支援を行う。支援制度・認定制度について年度毎に検証を行い、制度や体制の改善につなげる。~~

目標値

- ~~支援制度に基づく自主的な企画・事業等の実現件数：2件~~
- ~~その他PFが認定する自主的な企画・事業等の新規件数：2件~~
- ~~支援・認定制度に基づく交流者数：延べ200人~~

スケジュール

- ~~4月 公募要領の作成・公開~~
- ~~6月 支援・認定事業の選定~~
- ~~7月～3月 各事業の実施支援~~
- ~~3月 各事業責任者から実施報告書の提出~~
- ~~⇒実施事業の検証~~